

ヨシイちゃんの ひとりごと



同窓会

世代

戦後間も無
私の子供時
代、大人の男
性から、戦時
中、軍隊で一緒の部隊で戦った人た
ちが集まる「戦友会」の話をよく聞いた。
軍隊で辛かったことや戦死した同
年兵のことで話弾んだりし、
戦中戦後を少く青年で過ごした世
代は尋常小学校(国民)6年、中学
5年学制から、米軍主導で六三三制
に変更された。戦時中の大政翼賛会
の産の増やせで生徒数も多く
直教小学校在校生徒総数(1946)
899名、「慶校時(2002)48名に
激減。その多人数の友人達との激し
い競争の中で、友情が育まれ、その結
果、学年やクラス単位の同窓会が多
く出来た。特に戦時戦後の混乱期
に、学童疎開や貧しい青少年時代を
過ごした私の世代は、時代の共通認
識が強く、永年「同窓会」が開き続
けられていく。

私の場合、小学校は卒業後7年目
に会が出来て、戦時中では出来なかつ
た修学旅行(伊勢神宮)をして以
後、年一度は継続的に開かれている。
卒業後69年目になる今年私は私が世
話役、現在もお元気な卒業時のRS
先生をお招きして行つ(毎回)参加。
高校(聖徳館)は卒業時担任であった
(故)柳田先生(昇等大僧都)の提案で
毎年成人式の日に夏に開く裸木
会」と名の3年3組クラスが(98
2年)できた。先生がお亡くなり後、



メバも高齢化
して近年は年1
回になった。が
三組以外の方々
の参加希望があり、毎回20名を超え、
賑やかな裸木会が続いている。
集まって話すことは、昔話と近況報
告程度の他愛のない話だが、シヤベリ
思い出すことが良いのが、参加の多い
奴等は私も含め皆元気だ。
動物の中でも、個体力の比較的弱い
人類は、集団で生き続けてきた。が
近年は個々を重んじる傾向がある
否、むしろ個々バラバラにしたいた
力が有るよつと思えてならない。総評
も全字連「も火が消え、赤旗の月
国の労働者団結せよ」の記載も無い
「人」という字は、支えあつての形や」と
の祖母の思い出した。団結強くな
くても「人類は支え合い連続で成り
立っている」と思いながら「とんから
りん」を書いた。同窓会は有り、集
まりシヤベれる意義が大だ。

稲荷山 ぶらり散策記

越智薫史



「寒い、寒い」とぶつくと
さ言っているうちに春がやつてき
た。梅や桃の花が満開になり3月
3日の節句を迎えた。伏見稲荷大
社を訪れる観光客の足取りもかな
り軽やかになって来た。参道には
多くの土産物店が並んでいる。そ
の中に神具を主として扱っている
店がある。今は極端に減っている
だろつが、昔は各家庭に神棚が祀つ
てあった。その神棚に必要な神具
である。昔から初詣や初午にお参

り合いが祠(ホコラ)を造る工房・
K神具製作所を経営している。土
産物店に並ぶ銅板などで屋根が葺
かれた大中小のあの祠である。K
氏は腕利きの木工職人であるが、
この仕事をやる事業所も京都では
5軒に減つたと嘆いている。祠の
材料は主に檜(ヒノキ)であるが、
普通の檜ではダメで、木目の詰ま
つた木曾檜でないと良いものは出来
ないといふ。その木曾檜も年々確

マイウェイ

石動敏子



携帯もパソコンも
不要という友は少なく
ない。
ましてフェイスブックなどもつて
のほかの危険なもの、らしい。
そんなものに手を染めていては、
何かがあるそかになりそう。時間
の無駄かもしれない。少なくとも
退職後の自由、紡ぎ出した時間を
どう使おうと、と連絡を取りたが
る娘たちから逃げまわつていたよ
うな具合だった。やがて、観念し、
携帯の人になつた。
というのも、突然ということが起
こり得るのだつた。此の春小学生
になる孫が、まさかの早産で二か
月も早く生まれそう、との知らせ
を聞いてあわててかけつけた。あ
の頃から、携帯が手離せなくなつ
た。つい最近、その子に弟が生ま
れて来たのも、早産の緊急手術だつ
た。そんな時の「ほうれん草(報
告・連絡・相談)」はスピードが
命だ。

この教えを携帯やパソコン生活に
あてはめたらどういふ事になるか
しら。こわいのは、経済、いかに
快適に楽しんだところで、通信費
に何万円もかけては本末転倒だ
と思ふ。だから、まあ、こは、控
えめにかかり、生活の大事を潤
したり、補助する程度にとどめた
い。むしろ自転車で、徒歩で、
スポーツジムやプールや、その前
後の共同湯での会話などを楽しみ
「今、ここ、我」を充実させられ
たら嬉しい。携帯もパソコンもそ
保が難しくなつて価格も高騰して
いるといふ。問題のK氏は後継者
がいなくて彼の代でこの事業所も
閉鎖となる。
少し話を広げてしまつたが、大量生
産・大量消費それに大量廃棄を主
流とする経済システムになつて久
しくなる。手作業での職人仕事な
どは前近代的、生産性が低いとい
う事で後に追いやられてしまつた。
年季をかけて仕事を覚え熟練者と
して働くことが尊ばれなくなつて
いる。おまけに株価中心の博打経
済になつてきている。丁寧に物を
作つてなんぼ、といふ世界から遠
のいている。しかしよく考えて見
るとこの京都は職人の街、昔から

ところが、日常は、まつたく対
極で、ゆっくり進むときもある。
この両極端が(な)い交ぜの日
常をどのように乗り切つていくか
これは結構難問だと思ふ。例えば
寒暖の差の大きい二月、三月は誠
に凄みにくい。自律神経失調症、
最近の隠れた流行語「冬ばて」に
なりそうだ。ならないためには、
1. ぬるめの風呂に長めにつかる
2. 暖房は抑え気味にして、室内
外の温度差を最小限にする。
3. 適度な運動をする、と良いの
だとか。
この教えを携帯やパソコン生活に
あてはめたらどういふ事になるか
しら。こわいのは、経済、いかに
快適に楽しんだところで、通信費
に何万円もかけては本末転倒だ
と思ふ。だから、まあ、こは、控
えめにかかり、生活の大事を潤
したり、補助する程度にとどめた
い。むしろ自転車で、徒歩で、
スポーツジムやプールや、その前
後の共同湯での会話などを楽しみ
「今、ここ、我」を充実させられ
たら嬉しい。携帯もパソコンもそ
のため必要と思えるし、フェイ
スブックは、わたしにとつて、大
事な言語生活であり、創作のトレ
ニングの一環でもある。大胆にい
えば、枕草子の真似なのだ。
何てつたつて京都は素敵だし、
頑張つている人達が仰山。そんな
人達を身近に感じ、さらには、チ
ームの一員やサポーターでありたい。
その手段としての「に」したいとお
もつ。
「戦争俳句と震災俳句」がライ
フワークになりそう、と思ひ定め
たのはつい最近のこと。第二句集
「逢隈(あふくま)」を出版する
ことで、震災後の故郷宮城、福島
等、阿武隈の山河へのレクイエム
というテーマに行き着いた。やつ
と単なる花鳥調詠の遊びにとどま
らぬマイウェイに辿り着けた気が
している。
それとこれは一見無関係だが、ど
ちらもわが日常、である以上、引
き返せないだろつな。
沢山の人と交錯するスクランブル
ル交差点のような通信費はやはり
惜しくないのだ。

職人仕事で経済が成り立つた街で
あつたのではないか。古い伝統産
業として残すのも大切だが、現代
に生きることでできる職人経済を
取り戻せないのであろつか。誰か
賢い人にじっくりと考えて頂き
たい。
しかし、現実にはチグハグになつて
いる。稲荷の参道を訪れる観光客
も主流は外国人だ。神具などおよ
そ見向きもしない。現に店先を覗
くと祠などの神具は店の奥の方に
追いやられてきているよつだ。日本
人観光客も神具を買う人も少ない。
伝統ある伏見人形も同じ境遇にあ
る。総じて観光地の土産物の魅力
が無くなつてきているよつな気がする。

京都&東山 ぶらりピカリ

59

七条通



東のどんつきの知禮院正門から七条通を見る

京都、東西に長い大通りの一つ。この七条通りを今更と思うが、一頁に、京都芸大のイベント「still movie」の「ステイルピカ」3/7~5/10の間に書いたので、この通りを数回に亘って書くことにした。

この通は平安京の七条大路。東は東大路通交差点が起点。西は葛野大路通を越えて南に曲がり桂川に架かる桂大橋東詰で八条通と合流。西の末端部は山陰街道で京都府道13号線にあたる。東寺は、さらに移築費用1500円を支出して、明治28年(1895)3月から10月にかけて、崩門の移転工事を、写



戦後は、第一日赤が米軍に接收され臨時に病院として使われていた。その邸宅を囲む「土塀と樟の大樹」は今も一部が共に残り大都市大通りのT字形交差点で他にない景色である。そして1912年(大正元)~1913年(大2)通の北側の



民家を壊し「拡張」され、京都市電が東大路と七条通に開通した。大和大路付近の七条通の(西之門町)道幅が広くなっている。そこは現在三十三間堂南大門と同じ形の慶長6年(1599)西大門が有った所だ。門は博物館と七条通り拡張の邪魔となり所有者妙法院は、この門と土塀を京都府に寄贈しようとして企図したが壊す費用の分担保は断る。が、明治27年(1894)一転して解決に向かう。明治初年に南大門を焼失した東寺が、冥加金1000円(現在の感覚で数千円)を付けて、この門を貰いたいと申出で門の一件落着いた。府にとつても、当時東へ延ばす七条通を、智積院前まで貫通させられる好都合な提案と心じた。

市電が走った 京都を巡る

49

福田静二



府庁前を出た丸太町線の市電は、西へと向かって走ります。丸太町通の西側には、商店や会社があつと続きますが、まもなく「堀川丸太町」に到着します。丸太町通の由来は、諸説あるようですが、その一つが、この堀川丸太町付近に、材木を扱う業者が多かつたことから、と言われます。また、付近は地下水が豊富なところで、この近

昭和三十六年までは、交差する堀川通に「チンチン電車」こと北野線が走っていたことを「存じのます」。



堀川丸太町を行く市電

方、かなりの年齢を重ねた方でしょう。実は、私もそのひとりです。北野線がなくなるといふニュースを聞き込み、父と一緒に乗り納めに行きました。丸太町線の市電に堀川を少し下ったところに北野方面行きの乗り場がありました。

堀川通を南へ歩くと二条城です。最近の付近の話として、前に建つ京都国際ホテルが営業を終えて、その跡地活用が注目されています。跡地を買ったのが不動産会社で、本来ならマンションが建つところ、増加が見込まれる外国人向けのホテルを建築してほしいと京都市が異例の要請書を出したとか。そう言えば、堀川丸太町の西側角にあった、ホテルニュー京都も平成十八年に閉鎖されています。新しいホテル計画が頓挫し、しばらく空き地でしたが、現在では、スパーマーケットに変身して、付近の新しい買い物ゾーンとなりました。

さて堀川通は、戦争中の防火帯



堀川を渡る。右のビルは、ホテルニュー京都

として、家屋が強制撤去されたあとにできた幅広の道路ですが、終戦後はGHQが二条城前で小型飛行機の飛行場として使っていた事実があります。なかば伝説的に語られてきましたが、つい最近、私の知り合いの方から、小さい頃に実際、飛行機が離発着するのを見たという方が現れて、ビックリしました。(編集者も見ました)

西へ行くと、もと待賢小学校があります。校名は、平安京のできた頃、大内裏の東側に位置し、そこに待賢門という門があったこと由来します。門の前に石碑があります。もともと京都所司代の屋敷があつたところで、そのあと、明治三年、わが国最初の中学校、府立京都第一中学校(現在の京都府立洛北高校)ができました。市電が昭和五十一年に廃止されたあと、幾多の変遷を見る思いの堀川丸太町でした。

俳優の佐々木蔵之介さんの「美家佐々木酒造(株)」「聚楽第」とpに掲載の「美しい鴨川」は同社醸造のお酒です

酒屋で生きて 生かされて



第百話

酒屋を

継がない

昭和20年に亡くなった祖父
前は酒谷家の
14代目酒屋の三代目だぞ」とよく
言われ幼稚園時代から「利き酒」
の真似事をした。戦時中の酒屋を
減らす企業整備も逃れて酒屋と飲
み屋を続けてきた。中学高校も
「商業コース」を選び「商業簿記」
を学び、酒小売屋・(昭24)酒
問屋の手伝いをした。その頃から
「母」との間がギクシャクしだし
産みの母でないことを知り、家を
飛び出し、祖母の住む「吉田」の
家から高校へ通った。

父と「母」の間には妹一人と弟
(宗男)がいた。悩みあぐねて柳
田先生の自寺を尋ね「酒谷家」を
継がず、自分の道を進む」と決意
を話した。先生は「早まるな、お
父さんと私が会い話をしてから」
と言われた。結果は父の何時もの
手法で先延ばしでだった。私も
「大学卒業迄に決めればよい」と
思った。

晩年は優等生になった父だが、
それまでは女性関係に極めてたら
しかなかった。私の母を含め二度



結婚し、その
夫々に子供が
いる。関係を
持ったであろ
う女性は私の

知る範囲で両手に指数を超える。
「夫婦喧嘩」や祖母との「嫁姑」
の言い合いが起り、被害は子供
たちに降りかかり、夫婦子供全員
揃って食事する機会も稀だった。
何故こんな状態が許されるのか？
の疑問から、社会や政治問題に関
心を持ち出した。敗戦 直後、18
年間いられ解放された徳田志賀
両氏の記事の記憶が有り、社会科
学系の本を多く読んだ。幼稚園時
代から高校まで、大人しく、目上
の人には反抗せず、友人と喧嘩も
したことがなかった私が、先輩に
誘われて東山日曜会(社研)にさ
参加して、急激に変わった。

言葉の配達屋

月3日 天

日光が縄模様をかたちどる
土の上に、足を置いた。
狭くひしめく木々の根を、虫
や小動物はするすると乗り越え
てゆくのに、私はどう気をつけ
てもよるけてしまう。木々は頭
のずっと上の方でサワサワと話
すものだから、縄模様が踊って
遠近感が保てないことも原因の
一つだ。

「少しだけ静かにしてくれんか
ね」
ずつと上に繋がる緑の群れに言っ
てみたが、聞き入れてもらえな
い。仕方がないから、ゆっくり
前進してゆく事にした。
人が慎重に歩いているのに、
悪戯好きな子リスやネズミが大
切なシオルダーバックの上に乗っ
てくる。払いのけようと後ろに
手を伸ばしたら、誰かがバック

危ないよ!

歩道の昇形・
道路に上の写真の



ような雨水を落とす溝蓋
リチングがあります。

来なら正方形で無く少し
長方形で必ず溝の向きが「任」であるとの判決。双
方控訴せず確定したそ
うが、おエイ方々はママ
うです。恐らく行政の方
車輪の小さいママチャリ
チャリには載りませんか
で、何時かは、横向きに
に乗る人は気
ら気付かれませんか
を付けないと
大ケガをしま
す。
偉そうな注書を書きま
なり辛抱することになり
場合もあり、何よりも怪
私の痛みは「自己負担」に
なり辛抱することになり
場合もあり、何よりも怪
私の痛みは「自己負担」に



溝が、進行方

向と同じ縦向きの場合、
ウツカリすると溝に「前輪
がはまり、自転車車輪が急
止まり身体が飛びあがり
れ落車し大ケガ。もし、自
た、私だけでなく大ケ
律

の中に落ちた音がした。
「ああもう!だからいつも言っ
てるじゃないか、この上で遊ぶ
なつて」
バックの蓋を開けて紙の束を
掻き分けると、子ネズミが天地
も分からずもがいている。すく
い上げて下に戻すと他のものを
押しつけて一目散に逃げてゆく。
まったく、彼らには困ってし
まう。
気を取り直して、私は歩みを進
める。
茶化す動物達と進んでゆくと、
森が少しずつ開けてきた。川原
に近付いている証拠だ。
川には適当な間隔で飛び石が
並び、それを飛んで向こう側に
足を入れる。ここから暫く森
が続くのだが、いきなり木が無
い、草一つ生えていない砂の大
地に変わる。ここで動物達とは
お別れだ。
「ああ、言葉の配達屋さんだ!」
(おわり)

編集後記

平成7年(1995)
酒屋仲間て創つ
たグループ(後解散)
で発行のまじごと
という名の新聞を
私が引継ぎ平成9
年「とんからりん」
と改名し今に至り
ました。

当初は一ヶ月毎を今は月刊
作成も友人の業者でしたが費用
が高みパソコンソフトを入れ自
社発行に致しました。
編集等は特別の勉強をしたこ
とはなく若くは傾加わったグル
プでの新聞づくりの経験と思
い出しながら作成しています。配
布も近頃は私が手配り。
今は有力なご投稿者の協
力で紙面は豊かになりましたが
他の部分は自作で埋めること
になります。でも、そのレシヤで
左官の諸々の出来事に関心を
持つみるようになってきました。
さりながら今月で81歳。チヨ
ト物忘れが増えました。大昔食
べた料理の味、聞いた話は覚えて
いるにいつか先に置いた物を探
す無様を再々します。
「とんからりん」も仕上げて配
布してから、前に書いたことを
再三載せたりします。お優し
い読者の方々は指摘されませ
んが、自分で見付けて赤くなっ
ています。

年中無休のファミマ220の
集西梁サカタの仕事を、
また現役でシンドイことですが
身体は鍛えているので暫くは頑
張れるでしょう。
3月です。「友の会」の会員更
新をお願いします。